

(4) 健康状態不明者の取組み (R2～開始)

R4実績(ハイリスクアプローチ)

健康状態不明者とは

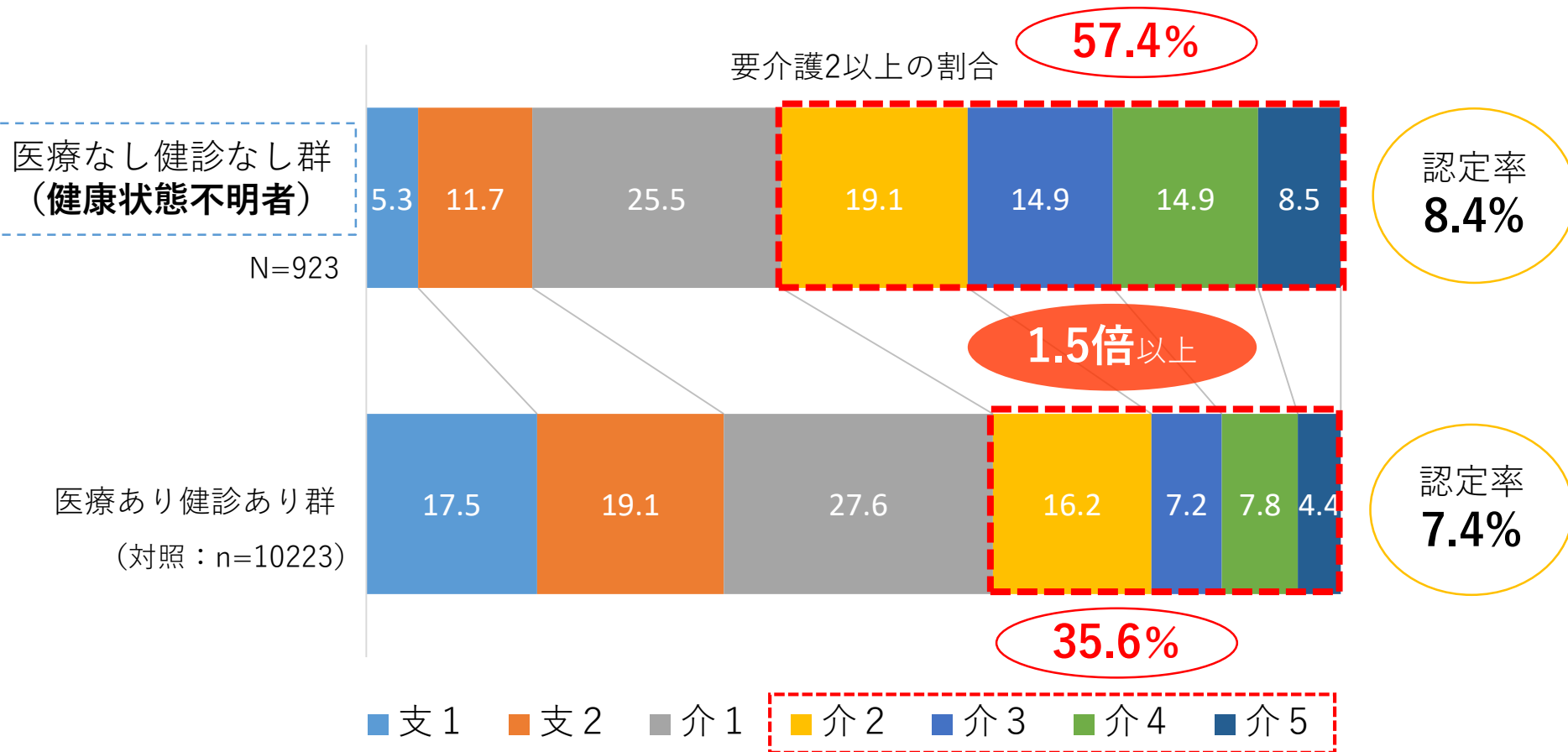
「医療受診」「健診受診」「介護認定」の利用が一定期間なく、健康状態に関する情報を、保険者（市）が把握できない者

(国) 健康状態不明者の健康状態を市町村が把握し、個々の状況に応じて、適切なサービスにつなげること

(大和市) 令和2年から、全国に先駆けて75歳以上の健康状態不明者について課題分析や取組を実施

【背景】健康状態不明者（医療・健診未受診）は、要介護2以上になる割合が多い

健康状態不明者の1年後の要介護認定の内訳



※健康寿命の障害の目安：「要介護2」が区切り

※H29健康状態不明者を抽出し分析

事業の目的・関連する施策

【事業の目的】

- ・健康状態不明者の状況把握をし、必要に応じて適切なサービスに接続する。
- ・早期に適切なサービスに接続することで、
 - ①対象者やその家族等のQOLの向上
 - ②介護予防・介護給付費の増加抑制を目指す。

【関連する施策】



おひとりさま
支援条例

認知症1万人
時代条例

R4対象者の絞り込みプロセス

国の定義（KDBシステムより）

令和3年度 医療受診なし・健診受診なし・介護認定なし **約1,000名**

2年連続で健康状態が不明な者に絞り込み

大和市の対象者

令和2～3年度 医療・長寿健診・要介護認定なし（全てに該当する75歳以上） **449名**

R3の状況から照会不要と判断した者19名を除外

包括に把握歴の有無を照会 **430名**

包括把握歴あり69名

包括把握歴なし361名

R4介護予防アンケート
回答あり **226名**

R4介護予防アンケート
回答なし **135名**

包括の把握がなく、介護予防アンケートの回答もない者を対象に、電話や訪問で状況把握を実施。必要に応じて保健指導、サービスの紹介、人生100年推進課や包括へ情報提供等を行った。

状況把握した方の全体像（イメージ）

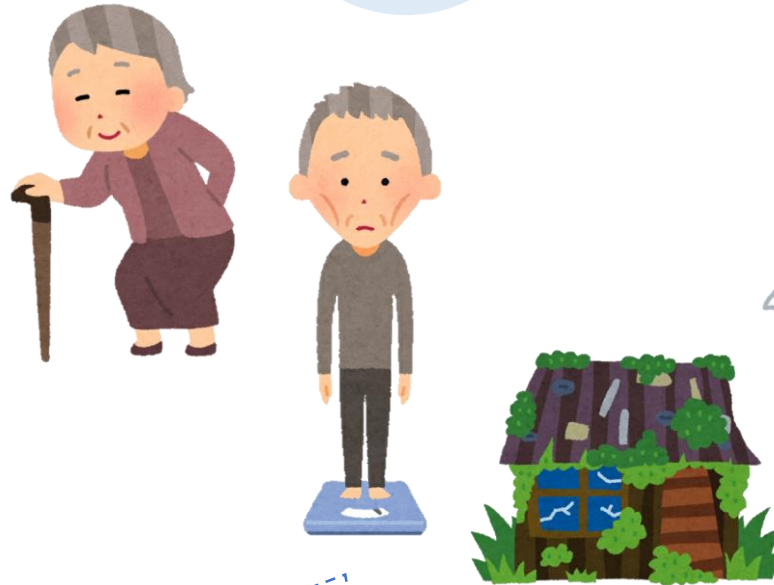
周囲とのつながりが希薄・ごく限定的な方が重症化しやすい印象

2割



受診する必要がないくらい元気！
健康には自信がある！

6割



グレーゾーン
（やせている、閉じこもっている…ただ困り感はない／所在が分からないなど）

2割



介護サービスや周囲のサポートが必要な方
（寝たきり、認知症…）

事業実施後の接続先・件数

R4.3現在

R4健康状態不明者1,000名（R3医療・健診・要介護認定なし）のうち、**430名**の状況を何らかの方法で把握した。

把握方法

①包括が把握済みの者	69名
②R4介護予防アンケート回答者 (うち訪問6名、訪問不在1名、電話67名)	226名
③R4介護予防アンケート未回答者かつ包括未把握者 (電話50名、訪問92名 ※重複あり)	142名

接続先※

・ 人生100年推進課へ対応依頼	27名
・ 人生100年推進課・包括に情報提供	190名
・ 健診受診	110名
・ 医療受診	201名
・ がん検診	83名
・ 要介護認定	76名

※延べ件数。重複あり

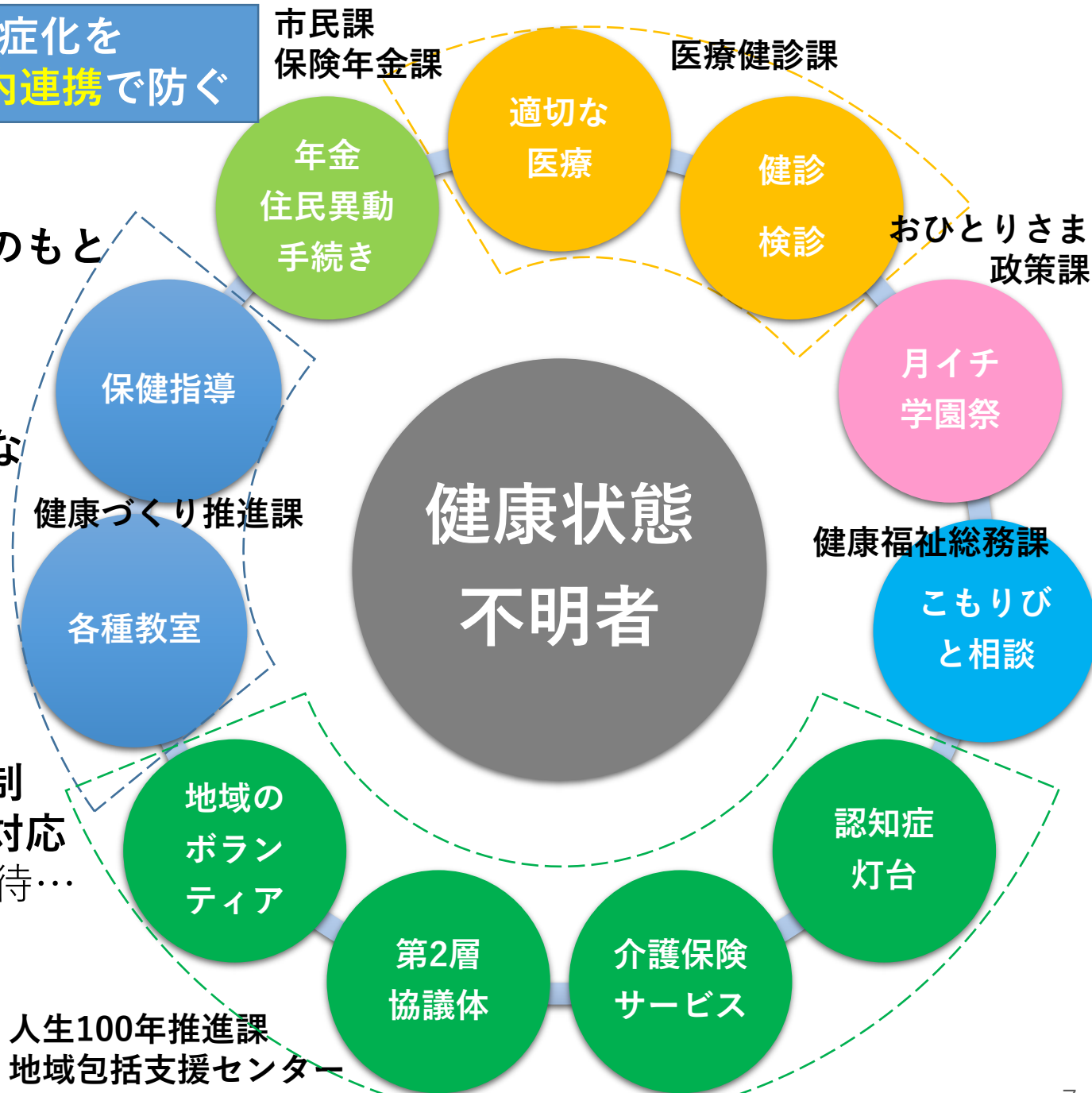
2年連続で健康状態が不明な者には、ほぼ全員にアプローチできた。
R5年度は、会計年度任用職員（介護予防運動指導員）が従事予定。

高齢の方の重症化を
地域との連携・庁内連携で防ぐ

全庁的な理解、協力のもと
対象者にアプローチ

対象者にとって適切な
資源、手続きに接続

介護予防、孤立解消、
QOL向上
社会保障費の増大抑制
潜在化した問題への対応
8050問題、高齢者虐待…



健康状態不明者のまとめ

- 他課や包括等へタイムリーに情報提供・相談でき、**連携体制を構築できた。**
- 支援が必要な高齢者を**適切なサービスへ接続**でき、訪問・電話した大半の市民から喜ばれた。
- マンパワーには限界があるので、リスクの高い層(すべて未回答)へ対応してきたが、介護予防・早期予防につながる取組みとして、継続していく必要性を感じている。